

放課後等デイサービス 自己評価表(全職員と内容の確認済み)

事業所名		おおみや塾		記録者名		四條里美	
		チェック項目		はい	どちらでもない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。		✓			スペースを有効利用している。
	②	職員の配置数は適切であるか。		✓			適切に配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。				✓	バリアフリーにはなっていないが、家具の固定など安全に配慮している。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		✓			利用者1人1人の目標設定と振り返りを定期的に行い向上に努めている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。		✓			開所から間もないので、日々の保護者等と連携を大事にし、業務改善につなげている。
	⑥	この自己評価票の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。		✓			ホームページで公開する。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				✓	第三者による外部評価を行うことで、今後の改善につながるため、検討中。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。		✓			施設内又、外部研修も積極的に参加している。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		✓			職員間、保護者間で話し合いを行い、計画を作成していく。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。		✓			WISC検査などの結果を伺って実態把握に役立てている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		✓			日々、または定期的にプログラムを立案し検討、共通理解の下、活動している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		✓			平日はおやつで変化をつけ、土曜日は活動内容に変化を付けている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定して支援しているか。		✓			1人1人の課題に応じたプログラムで活動している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか。		✓			平日は個別活動、土曜日は個別と集団活動を組み合わせている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。		✓			ミーティングはなるべく早い時間に行い、その日の動きに見通しをもって業務に当たっている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		✓			日々の振り返りを簡単に行い、翌日からの支援に役立てている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		✓			記録は毎日とっていて、今、その子に何が必要かを考えている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。		✓			定期的に施設内ケース会議やモニタリングを行っている。
関係機関や保護者との連携	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。		✓			学習支援、余暇活動支援、相談支援などを行っている。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。		✓			児童発達支援管理責任者が参画している。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。		✓			各学校の月の予定をプリントで把握し、退所時に翌日の下校時刻などを確認している。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。					今のところ、該当する生徒の利用はない。

		チェック項目	✓	どちらでもない	いいえ	
関係機関や保護者との連携	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		✓		中学生の利用者がほとんどなので、以前使っていた放課後等デイや学校から情報を頂いている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	✓	✓		卒業者はまだ出ていないが、卒業後社会人として生活を送ることへの見通しが持てるよう情報提供を行っている。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	✓	✓		研修に参加するよう勤めているが、連携や助言というところまでには及んでいない。今後の課題としてとらえている。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。		✓		交流の機会がなかなかもないが、適当な状況で交流できるように配慮したい。
	㉗	地域自立支援協議会等へ積極的に参加しているか。	✓			研修会等に参加している。
	㉘	日ごろから子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓			定期的に面談を行っている。また、送迎時には、その日の学習等の様子を伝えている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。		✓		今後、必要に応じてペアレント・プログラムへの参加を呼びかける。
保護者への説明責任等	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓			契約時に説明を行っている。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	✓			保護者の方と定期的に面談を行っている。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	✓			ペアレント・プログラムを今後実施していくことで、保護者同士の連携を支援していく。保護者参加のプログラムはあるがまだ連携とまではいかない。
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓			グループ企業内でも周知し、すべての事業所で適切に対応できるようにしている。
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓			毎月のお便りを通して情報を発信している。
	㉟	個人情報に十分注意しているか。	✓			職員同士、随時注意喚起している。
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓			必要に応じてメモを利用したり、わかりやすく短めの言葉で話したりすることを心がけている。
非常時の対応	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		✓		事業所で行う行事がまだ企画されていないので、招待等は難しいが、近隣との付き合いは大事にしている。
	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	✓			各種マニュアルを定期的に見直して、現状にあったマニュアル作りに努めたい。
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		✓		年に2回、5月と1月に実施予定。
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓			必要に応じて外部研修に参加したり施設内での研修を行ったりしている。
	㊶	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		✓		身体拘束を行う必要がないように、パニックなどについては先手の対応ができるようにする。
	㊷	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓			利用開始時にアレルギーを確認している。1名については魚介類を除いた食品を使うようにしている。
㊸	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	✓			ヒヤリハットの問題点を共有し、対応策を話し合っている。	